



北海道大学

令和3年7月29日  
北海道大学 記者会見 資料1

# サステナビリティ推進機構の設置

“Institute for the Advancement of Sustainability”

「SDGs達成への取り組み」から「世界の課題解決」に貢献する組織改革

北海道大学 理事・副学長

横田 篤



北海道大学

# 「サステナビリティ推進機構」設置の背景

- 北海道大学は昨年10月に宝金総長が就任し、新執行部が発足して以来10ヶ月間、新たな決意のもとに、「世界の課題解決に貢献する北海道大学」を目指して歩みを進めてまいりました。
- 今日、大学には、教育と研究を通じて科学技術イノベーションを創出し、学内外の様々なステークホルダーとの対話と信頼関係の構築（エンゲージメント）を通じて、地域や世界の課題解決に貢献することが求められています。
- この「地域や世界の課題」は、例えば、脱炭素社会の実現、少子高齢化、人口減少、産業衰退など地域問題の解決であり、包括的には、2015年に国連総会で採択された国際目標「持続可能な開発目標（SDGs）」としてまとめられています。
- 新執行部では、この間の様々な検討を通じて、本学の設置の経緯や発展の歴史をふまえ、本学はSDGsの達成に十分貢献できる「比類なき」研究主導型の基幹総合大学であると認識し、SDGsの達成を本学のビジョンの中核として据えることとしました。
- この度、8月1日付で、その実現のために、総長をトップとする「サステナビリティ推進機構」を新たに設置する運びとなりました。



# SDGs達成における大学に対する社会的要請

## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



### (A) SDGs (2016-2030)

2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された2016年から2030年までの国際目標。**17のゴール・169のターゲット**で構成され、地球上の誰一人として取り残さないことを目指す。

### (B) 経済、社会、環境の調和

持続可能な開発を達成するためには、経済成長、社会的包摂、環境保護という3つの主要素を調和させることが必須。

### (C) 持続可能な社会の創り手の育成

発展途上国だけでなく、先進国自身にも必要。政府・自治体・産業界・教育研究機関等が積極的に取り組んでおり、それぞれのセクターで人材が必要。

## 【大学に対する社会的要請】

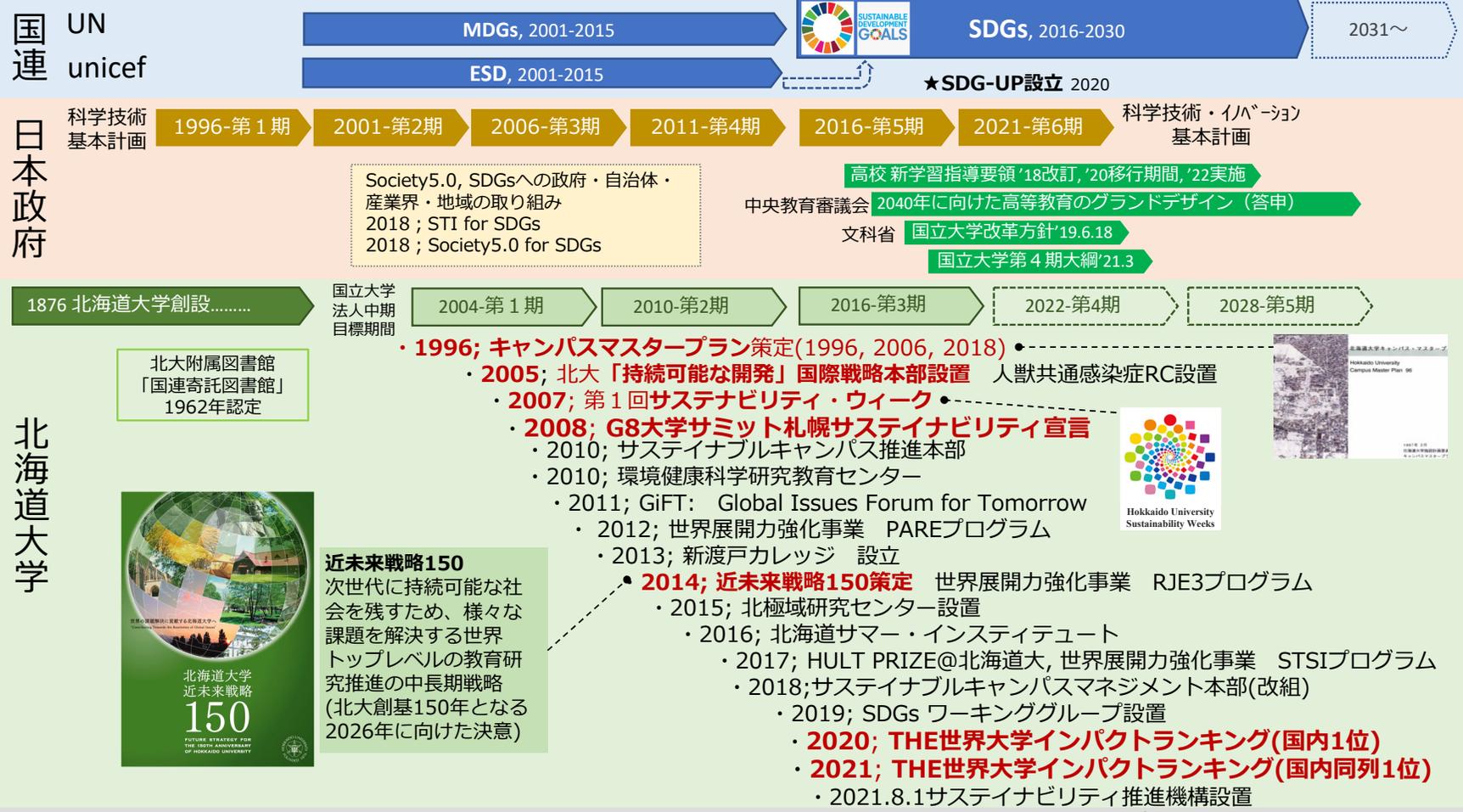
本学の主要なステークホルダーがそれぞれの立場でSDGsへの対応を必要としており、その受け皿や連携相手として大学の貢献が求められている。

- 受験生：2022年度から「持続可能な社会の創り手の育成」が目標として明記される新学習指導要領が高校で実施される。
- 企業：ESG投資の比率の高まりや、企業の生存戦略などの観点から、SDGsを強く意識した企業経営が求められている。
- 自治体：自治体が直面する少子高齢化や人口減少、地方経済の低迷などの課題解決に効果的な方策を求めている。



# 北海道大学の活動のあゆみ - 「持続可能な開発」から「SDGs」へ

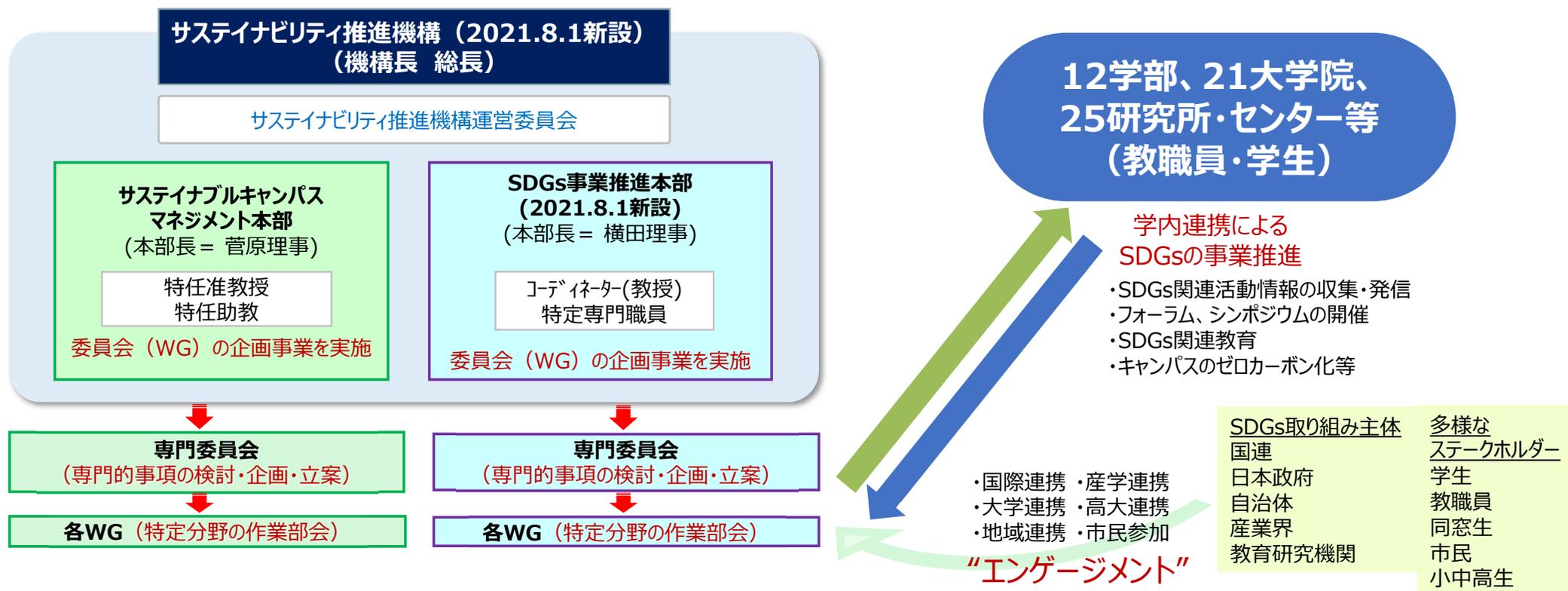
- 1996年、国内の大学では初めて **キャンパスマスタープラン**を策定、20年以上に渡り活動中
- 2005年、「**持続可能な開発**」国際戦略本部を設置し、**サステナビリティ・ウィーク**などの事業を10年間展開
- 2008年、G8北海道洞爺湖サミットにあわせて本学が副議長大学として札幌で開催した世界初の **G8 大学サミット**で「**札幌サステナビリティ宣言**」を採択
- 2014年、「**近未来戦略150**」策定
- 2015年、国連でSDGsが採択
- 2020年、**THE世界大学インパクトランキング**国内1位（総合ランキング76位、世界トップ10%）
- 2021年、**THE世界大学インパクトランキング**国内同列1位（総合ランキング200位以内。東北、筑波、東京、京都、岡山、広島の各大学と同列）



※右図赤字と対応

# サステナビリティ推進機構設置構想（2021.8.1新設予定） ーグリーン・スマート・サステナブルキャンパスの実現を目指してー

総長をトップとした「サステナビリティ推進機構」を設置。この中に、SDGs関連事業に特化し、強力に推進する組織となる「SDGs事業推進本部」を新たに設置。これと既存の「サステナブルキャンパスマネジメント本部」の2つのサステナビリティに関連する本部を両輪とする学内のサステナビリティ推進体制を構築。



# 本学の当面の目標・計画

## 目標：

本学設置の経緯やその発展の歴史を踏まえつつ、美しいキャンパスや広大な研究林など、本学が保有する物的・知的資産を活用し、また、地方自治体や国内外の大学等と連携を図りながら、持続可能な社会の構築に資する教育、研究、社会連携などを推進することにより、比類なき大学として、SDGsの達成に貢献する。

## 計画：

SDGsに関わる教育、研究、外部連携、評価、広報など、様々な関連事業を一元的に集約しつつ、取組を推進することにより、SDGsの達成に貢献する社会変革の原動力を創出する。

### (SDGs関連事業の情報集約と発信)

SDGs関連事業の情報集約と発信力の向上を図るとともに、関連事業の取り組みを通じて、本学の様々なステークホルダーとのエンゲージメント力を強化することにより、社会における本学のプレゼンスやブランド力を高め、教育研究成果が社会に与えるインパクトの強化に貢献する。

### (持続的社会的創り手の育成)

学生・教職員のSDGsに関する意識や理解の向上を図るために、SDGsの基礎を体系的に学修し、その展開力を身に付けるための新たなカリキュラムを開発することにより、世界や地域の課題解決に資する、持続可能な社会の創り手を育成する。

### (キャンパスのゼロカーボン化)

持続可能な未来社会を見据えつつ、大学や地域とのパートナーシップの充実によるゼロカーボン化実現への取り組みを通じて、カーボン・ニュートラル達成に貢献するグリーン・スマート・サステイナブルキャンパスの構築・研究を推進する。



## 今後の予定、問い合わせ先

### サステナビリティ推進機構キックオフシンポジウム

日時：9月下旬 14:00-15:30（予定）

場所：ウェブ

主催：北海道大学サステナビリティ推進機構  
（その他詳細は検討中です）

### 問合せ先

北海道大学SDGs事業推進本部

TEL: 011-706-4605

E-mail: [sdg@facility.hokudai.ac.jp](mailto:sdg@facility.hokudai.ac.jp)

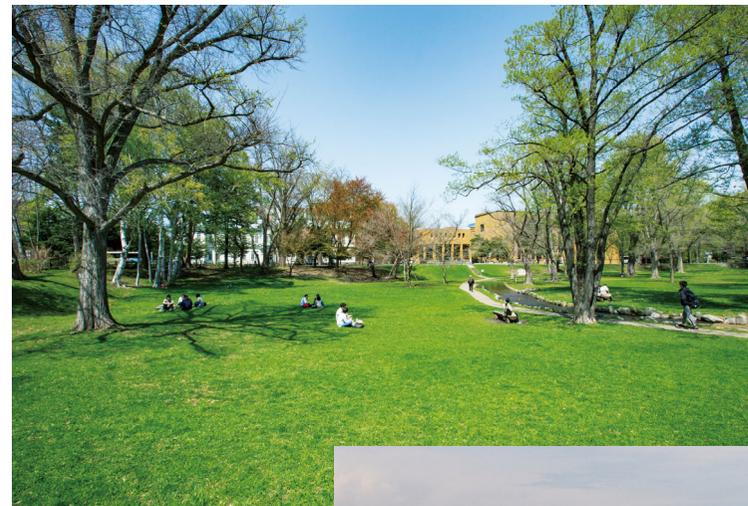


# 本学の設置の経緯や発展の歴史を踏まえ、美しいキャンパスや広大な研究林など、本学の物的・知的資産を有効活用し、SDGsの達成に貢献

7



AIや5Gを用いたロボットの改良を進める



日本有数のキャンパス面積を誇り、豊かな緑地が広がる



総面積7万ha(国土の0.2%)、道北を中心に7か所ある研究林(写真は雨竜研究林)



北海道大学水産学部附属練習船「おしよ丸」